

○新たな都市軸を形成し、面的な活性化を促す

水戸市中心市街地は国道50号線に沿ったリニアな構成が特徴です。線状であるがゆえに、国道50号線だけが表で、それ以外は裏という構成になりがちで、水戸芸術館が素晴らしい活動内容にも拘わらず、中心市街地との関連性が薄いのは、こうした都市構造が一因になっています。水戸京成百貨店が泉町北地区から現位置へ移転するときにも、こうした問題が取り上げられ、泉町南・北地区を縦貫する都市軸の形成が切望されていました。新水戸市民会館は、芸術館と京成百貨店をつなぎ、まさにこの新都市軸を形成すべきだと考えます。東西と南北の都市軸が交差することにより、面的な影響の波及が生まれ、より広い範囲の活性化につながります。

○水戸の地域資源をつなぐ

南北新都市軸は、京成百貨店から西ノ谷公園を経て、観光拠点の借楽園、千波湖を結びます。現在進められようとしている水戸カンファレンスリゾート構想でも、中心市街地と借楽園・弘道館等の歴史資源と千波湖をつなぎ、要所に新たな観光施設などを新設する構想となっています。新水戸市民会館は、カンファレンスリゾートの核となって、水戸の歴史資産・文化資産をつなぎます。

○伝統文化や食文化・地域特産物の活用

歴史資産以外に、水戸には伝統文化や食文化が多くあります。水府提灯、水戸黒といった伝統工芸品は建築的要素として取り入れるべきです。また、水戸は納豆・鯉鮒など有名な食文化があります。こうした食文化と共に国内有数の茨城の農産物を発信する食のアンテナショップ設置を提案します。



水戸市中心市街地の地域資源と新たな都市軸

設計共同企業体結成における自社の役割等（自社が得意とする分野など）

当社は、官民の大型プロジェクトを数多く出がけ、意匠・設備職員がおり、国内に幅広いネットワークを有していますので、JVの一員として、技術的要求に十分こたえる能力があると自負しております。しかし、特筆すべきは、ここ十数年間、行政や商工会議所、有志団体などと協同し、多くのまちづくり活動や提言を行ってきたことです。

○まちづくり活動の実績

＜プロジェクト＞

- ・国内発の地域発信型映画『桜田門外ノ変』オープンロケセットや記念展示館の企画・設計・監理・運営
- ・泉町地区の民設民営コミュニティセンター「village310」企画・設計・監理
- ・老朽化した商店会共同所有の「泉町会館」のリニューアル企画・設計・監理
 - ・イベント「水戸パー・バル・パール」企画運営
 - ・イベント「水戸まちなかフェスティバル」出展

＜提言・啓蒙活動（説明会開催、TV、ラジオ、新聞雑誌等で発表）＞

- ・2006年 「泉町北地区再開発に対する提言」（街づくり100年委員会）京成百貨店移転に伴い跡地利用を提言
- ・2011年 「こうだっぺ あーだっぺ そうだっぺ どうだっぺ 水戸」（上市朝会）震災を機に水戸市街地の再構成を提言
- ・2015年 「まちなかしっかりデザイン」（水戸商工会議所）多くの市民と協議を経て水戸のビジョンを提言

○市民の意見を調整・集約して設計へ反映

十数年にわたるこれらの活動の中、数十回にわたり、延べ数百人の人々にヒアリングを行い、議論を交わしてまいりました。対象は高校生から高齢者、主婦やサラリーマンから行政、地元経済界、学識経験者などまで多岐にわたる立場の方々です。こうした経験及びネットワークを活かし、設計共同企業体においては、地権者のみならず、水戸経済界や学生、主婦層や各種団体などの地元の意見を調整し、集約して設計内容に反映させることに注力したいと考えます。

具体的には、セミナーやワークショップ開催などを定期的に行います。また、膝下の地元商店会、自治会をはじめ、商店会連合会、商工会議所、NPO、任意団体、行政などとのネットワークをフルに活用し、きめ細かいヒアリングと意見交換を行い、意見の集約を図りたいと考えます。